

◆ 今週のコメント

- ・インフルエンザの定点当たり報告数は8.90で、過去5年平均値(14.94)を下回るものの、今シーズン(平成19年～平成20年)で最も多くなっています。今後も引き続き、動向にご注意ください。
- ・手足口病の定点当たり報告数は0.51(21例)で、第2週以降過去5年平均値を上回る状態が続いています。年齢階級別にみると、1歳(9例)が最も多く、次いで2歳(6例)となっており、1歳と2歳で71.4%を占めています。
- ・アメーバ赤痢(腸管アメーバ症)の報告が1例あります。本年の累積報告数は2例となっており、推定感染地域は国内で、推定感染経路は2例とも性行為感染(異性)です。

◆ 今週のトピックス:〈レジオネラ症〉

- ・本年の累積報告数は5例で、第2週、4週、5週と報告が続いており、過去の同時期(2月6日)までの累積報告数(0～1例)と比べて、顕著に多くなっています。詳細はトピックスに掲載しています。

◆ 発生状況

全数報告の感染症

(性別、年齢、症状、推定感染地域、推定感染経路の順に掲載。ただし、結核は除く。)

- ・二類:結核 9例(喀痰塗抹陽性 3例)【1月以降の累積報告数 38例(喀痰塗抹陽性 12例)】
- ・四類:レジオネラ症(肺炎型) 1例
- ・五類:アメーバ赤痢(腸管アメーバ症) 1例
- ・五類:後天性免疫不全症候群(無症候期) 1例

定点報告の主な感染症

(市内定点数 インフルエンザ定点68, 小児科定点41, 眼科定点10, 基幹定点1)

定点	感染症名	定点当たり報告数	報告数
インフルエンザ*	インフルエンザ	8.90	605
小児科 (降順5位まで)	① 感染性胃腸炎	7.29	299
	② 水痘	0.68	28
	③ A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	0.63	26
	④ 手足口病	0.51	21
	⑤ 突発性発しん	0.29	12
眼科	流行性角結膜炎	0.90	9

病原体情報

(検体名は、紙面の都合上、咽頭ぬぐい液をNP、糞便をFC、髄液をSF、尿をURと略す。)

検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名	検出病原体(報告数)	臨床診断名(採取週)	検体名
RSウイルス(1)	かぜ症候群(第52週)	NP	アデノウイルス1型(1)	感染性胃腸炎(第2週)	FC, NP
ノロウイルスGII(4)	感染性胃腸炎(第50・2・3週)	FC	アデノウイルス5型(1)	感染性胃腸炎(第2週)	FC

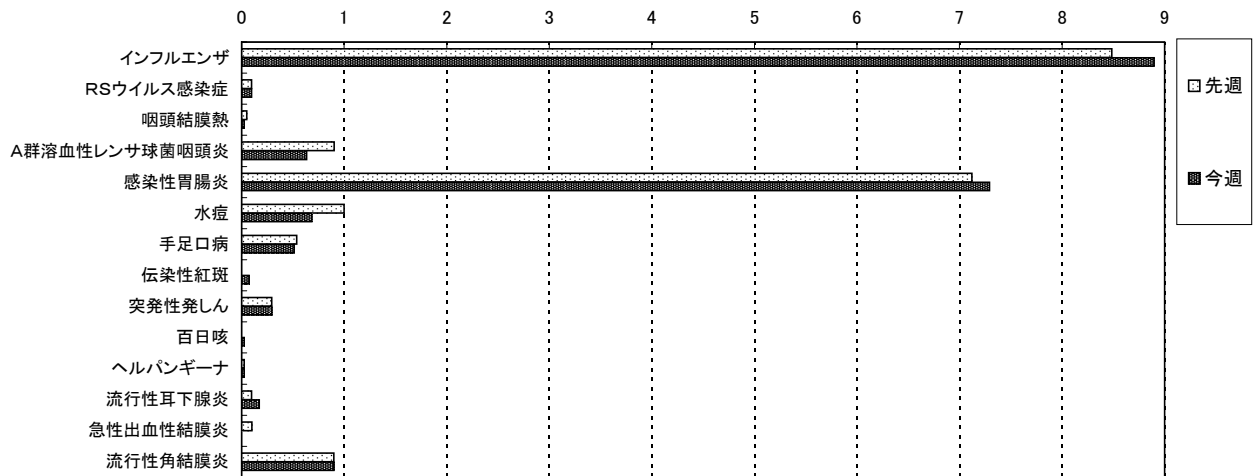
【次ページ以降の主な内容】

発生状況の概況グラフ / 今週のトピックス:〈レジオネラ症〉

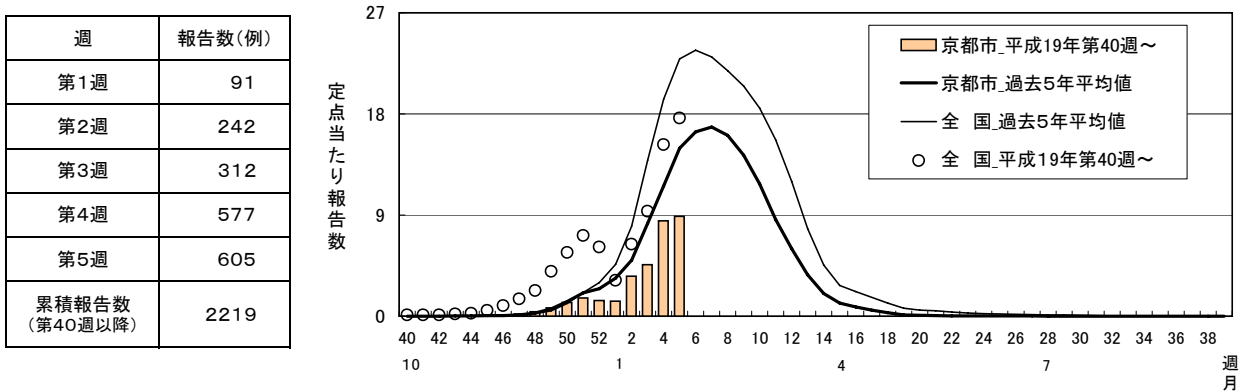
(注)京都市のデータは、平成20年2月12日現在の報告数で、全国の還元データと若干異なる場合があります。また、本情報での患者数は、届出医療機関所在の保健所での集計で、患者の住所を示すものではありません。病原体情報は、病原体定点等から京都市衛生公害研究所へ搬入された検体から検出された病原体です。

◆ 発生状況の概況グラフ

1 今週(第5週)と先週(第4週)の定点当たり報告数の比較

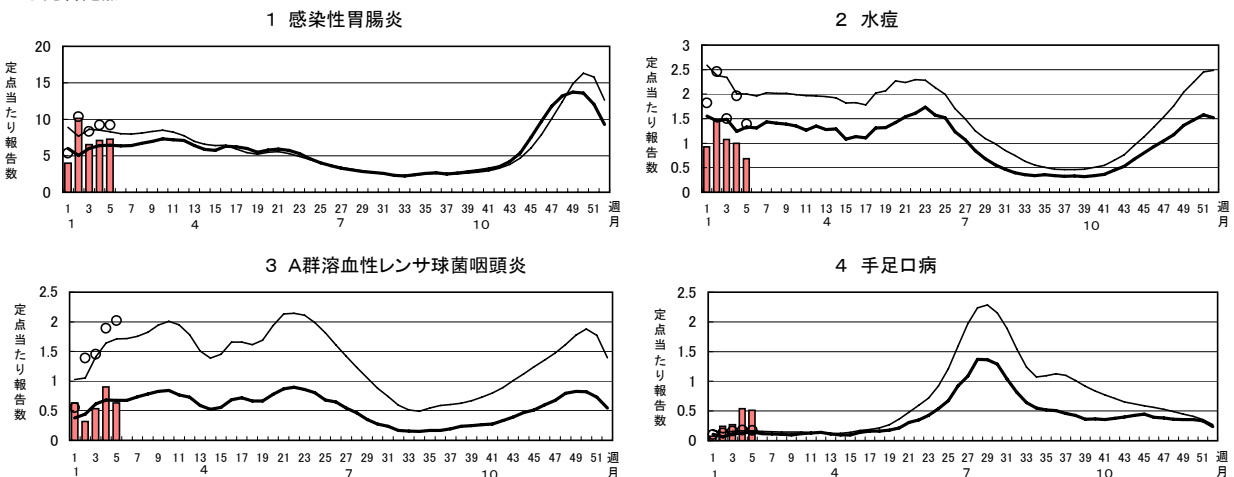


2 インフルエンザの定点当たり報告数の推移

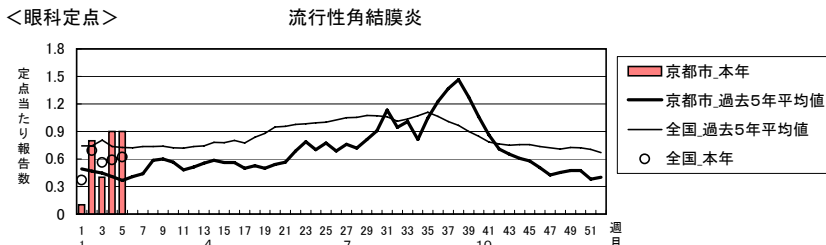


3 主な感染症(小児科)の定点当たり報告数の推移

<小児科定点>



<眼科定点>



今週(第5週)のトピックス:〈レジオネラ症〉

本年の累積報告数は5例で、第2週、4週、5週と報告が続いており、過去の同時期(2月6日)までの累積報告数(0~1例)と比べて、顕著に多くなっています。また、昨年(平成19年)の報告数も、本市、全国ともに顕著に多くなっています。

本年の特徴は、性別では、やや男が多く、推定感染経路では、水系感染が多くなっています。推定感染地域では、市外からの報告がなく、全て京都市内からの報告となっています。年齢では、全て60歳以上の高齢者からの報告です。なお、病型をみると、全て肺炎型であり、ポンティアック熱の報告はありません。

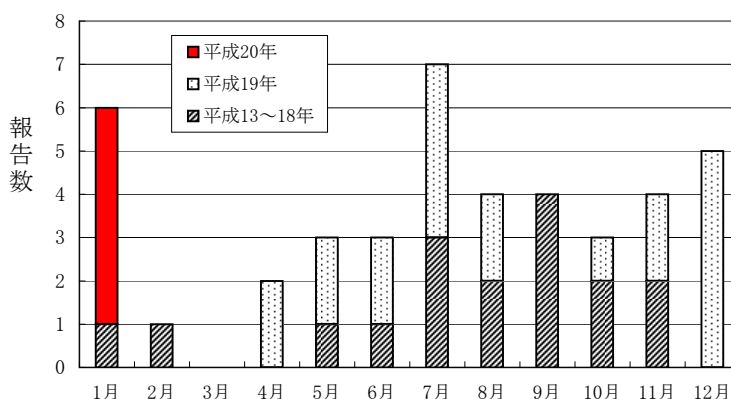
本年の都道府県別累積報告数(第1週~第5週)をみると、東京都及び大阪府で9例と最も多くなっており、次いで兵庫県及び京都府の6例(うち京都市は5例)の順となっています。

届出数が増加した理由の一つとして、迅速診断が可能である尿中抗原検査キットの普及がいらわれていますが、報告が続いていますので、動向にご注意ください。

診断年推移

	本市		全国
	年間	同時期までの累積	年間
平成11年4月~	0	0	56
平成12年	0	0	154
平成13年	1	0	86
平成14年	2	0	167
平成15年	3	0	146
平成16年	1	0	161
平成17年	2	1	281
平成18年	8	1	429
平成19年	20	0	655
平成20年	—	5	—
計	37	7	2,135

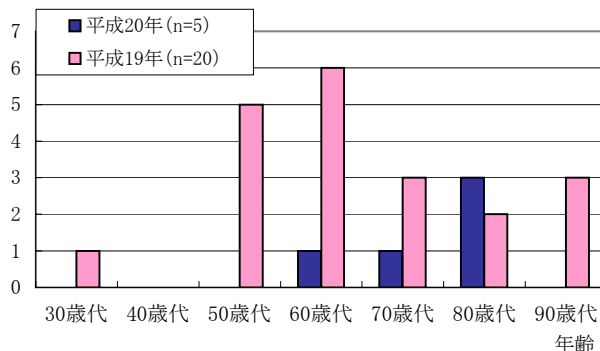
診断年別月別推移



平成20年及び平成19年の特徴

		平成20年 (n=5)	参考: 平成19年 (n=20)
性別	男	3	14
	女	2	6
推定感染経路	水系感染	3	7
	塵埃感染	1	0
	その他	1	1
	不明	0	12
推定感染地域	京都市	5	11
	京都市外	0	5
	不明	0	4

平成20年及び平成19年の年齢階級別報告数



平成20年の都道府県別累積報告数(第1週~第5週)

